

平成30年度

事務事業評価表 A (平成29年度の実績評価)

記入年月日  
平成 29 年 3 月 22 日

事務事業名		桜川市PR事業			事業区分		担当	
		政策体系上の位置付け			新規/継続	新規	事務事業No.	060101000948
総合計画の施策名		0601 市民協働のまちづくり			単独/補助	単独	所属課	010101
政策名		06 みんなで築く自治のまちづくり			主要事業	対象外		秘書広報課
施策名		01 市民協働のまちづくり			市長マニフェスト	対象外		
手段名		01 ①広報広聴の充実			未来PJ事業	対象外	グループ	秘書広報G
					合併建設計画事業	対象外		
財務会計上の位置付け					事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計	
	01	02	01	04	01	00	広報広聴事業	
法令根拠	さくらがわ応援大使設置要綱							
	↳ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入							

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要(事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
<ul style="list-style-type: none"> <li>他自治体等に桜川市の特産品をPRのための特産品を用意し、特産品を活用して市の魅力を広く全国に発信し、市の知名度向上及びイメージアップを図る。</li> <li>H28年度は、さくらがわ応援大使設置要綱を策定。</li> <li>H29年度は、6名のさくらがわ応援大使の委嘱を行い、大使のPR活動を支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他自治体等に桜川市の特産品をPRのための特産品を用意し、特産品を活用して市の魅力を広く全国に発信し、市の知名度向上及びイメージアップを図った。</li> <li>H28年度は、さくらがわ応援大使設置要綱を策定。</li> <li>H29年度は、6名のさくらがわ応援大使の委嘱を行い、大使のPR活動を支援した。</li> </ul>

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
<ul style="list-style-type: none"> <li>PR用の特産品の用意する。</li> <li>県人会の会場で、特産品をPRする。</li> <li>さくらがわ応援大使設置要綱の策定し、さくらがわ応援大使の候補者の選定を行う。</li> </ul>	PRする特産品の数	品	17.00	14.00	20.00	20.00	20.00
	さくらがわ応援大使候補者数	人	11.00	6.00	10.00	10.00	10.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>県民及び首都圏の人々</li> <li>さくらがわ応援大使</li> </ul>	首都圏の人口	千人	42,500.00	42,000.00	41,500.00	41,000.00	41,200.00
	さくらがわ応援大使委嘱者数	人	0.00	6.00	10.00	10.00	10.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>桜川市の特産品を多くの人に知ってもらい、購入してもらう。</li> <li>大使に市のPR活動を行ってもらう。</li> </ul>	茨城県人会参加回数	回	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
	特産品のPR回数	回	18.00	20.00	30.00	30.00	30.00
	PR活動依頼回数	人	0.00	18.00	30.00	30.00	30.00

(3) 投入量(事業費)の推移

投入量	事業費内訳	単位	28年度	29年度	30年度	期間限定総投入量
			(実績)	(実績)	(計画)	
事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0
	使用料・手数料	千円	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	344	314	395	0
	事業費計(A)	千円	344	314	395	0
人件費	正規職員従事人数	人	2.00人	2.00人	2.00人	/
	述べ業務時間	時間	84.00	101.00	100.00	
	人件費計(B)	千円	246	295	293	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	590	609	688	

事業費の内訳	29年度事業費 実績(千円)			30年度事業費 予算(千円)		
	11 需用費			11 需用費		
	314			395		
	合計	314		合計	395	

(4) 当該年度の実施内容	30年度の事業内容	31年度の事業内容	32年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する <ul style="list-style-type: none"> <li>主要事業</li> <li>市長マニフェスト</li> <li>未来PJ事業</li> <li>合併建設計画事業</li> </ul>			

事務事業名	桜川市PR事業	事務事業No.	60101000948	所属課	秘書広報課
-------	---------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?

- ・平成28年度より、茨城県人会時の特産品のPRや市長が他の自治体に訪問する際に特産品のPRをするために始まった。平成29年度より県人会時の特産品のPRは商工観光課で実施することになった。
- ・市の魅力を広く全国に発信し、市の知名度向上及びイメージアップを図るため、平成28年12月1日に「さくらがわ応援大使設置要綱」を策定した。

(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?

特になし。

(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容

改革改善を行う

茨城県人会でのPRは、会場にブースを設け、PRすることから観光PRも兼ねて商工観光課で次年度より予算計上することとなった。

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評 価 項 目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	・市の特産品をPRするための事業なので、魅力と活力ある産業づくりに結びついています。 ・大使に、市の魅力を広く全国にPRしてもらうことで、市の知名度向上及びイメージアップに繋がります。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	・桜川市の特産品PRのために、公費を支出してPRすることは妥当です。 ・大使に、市のPRをしてもらうために必要です。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	・特産品の数が限られており向上の余地はありません。
有効性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	市の特産品のPRができなくなります。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか?(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名   観光PR事業	<input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる	桜川市の特産品をPRする事業であるため、観光関係の事業と連携ができる。 大使については、観光大使を新たに設置することで、PR大使として連携できると思われる。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない	・自治体等を訪問した際の特産品のPRなので、削減の余地はありません。 ・大使には、PRのための名刺とPR品の支給のみなので、削減の余地はありません。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	・桜川市のPRするための事業なので、公平・公正です。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	本年度は、茨城県人会へ2回参加し特産品のPRを行った。また、市長が他の自治体を訪問した際に市の特産品をPRすることができました。 大使については、観光大使を新たに設置することで、PR大使として連携できると思われる。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持		○																							
	低下																									
		(6) 事務事業優先度評価結果																								
		成果優先度評価結果																								
		コスト削減優先度評価結果																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>